

次期競輪電話投票システムをクラウド環境で構築 ～「BizXaaS COBOLクラウドサービス」を導入～

財団法人車両情報センターは次期競輪電話投票システムにNTTデータの「BizXaaS COBOLクラウドサービス」を導入し、2012年3月5日よりサービスを開始した。COBOLクラウドサービスは、COBOL言語で開発された業務アプリケーションの実行環境をプライベートクラウドにて提供するサービスだ。NTTデータは、COBOLクラウドサービスを利用したファーストシステムとして、車両情報センターの次期競輪電話投票システムを、現行サーバ環境からクラウド環境へ約半年間で移行を行った。

NTTデータが提供するCOBOLクラウドサービスは、システムプラットフォームとなるハードウェア・OS、およびミドルウェアをクラウドサービスとして構築し、お客様資産であるCOBOL言語の業務アプリケーションを移行する環境を提供するものである。今回、本サービスと、COBOL言語の業務アプリケーションを移行する「BizXaaSマイグレーションサービス」を組み合わせ、財団法人車両情報センターの次期競輪電話投票システムの移行を約半年間という短期間で実現した。

BizXaaSマイグレーションサービスのCOBOLクラウドサービスは、主にメインフレーム上に構築されているお客様IT資産のマイグレーション先として、COBOLアプリケーションの実行環境をプライベートクラウドにて提供するサービスである。本サービスでは、「BizXaaS」で提供するクラウド環境に、ミッションクリティカルシステムで実績のあるNTTデータのオープン系の基盤ソリューション「PORTOMICS」を組み合わせることで、従来個別SIが必要であったメインフレームシステムのマイグレーションを業務プログラムの移行だけで実現することができる。これによりレガシーシステムのオープン化における課題となっていた、移行リ

スクの低減、移行コストの削減、移行期間の短縮が可能となる。今回のマイグレーションの特徴は次の通りだ。

◆アプリケーション移行コストの削減：COBOLクラウドサービスが提供するPORTOMICS機能により、現行システムの業務アプリケーションのインターフェースをほとんど修正することなくCOBOLクラウドサービス上へ移行した。アプリケーションの修正箇所を局所化することで、従来のシステム開発に比べ単体試験の試験期間を短縮した。

◆プラットフォーム導入コスト（イニシャルコスト）の削減：COBOLクラウドサービスを利用することにより、イニシャルコストに含まれる一般的なシステム開発に必要となるハードウェア・ソフトウェアのプラットフォーム導入コスト（機器費用、ライセンス費用）を削減した。

◆実績あるソリューションで短期間、低リスクでのシステム移行を実現：COBOLクラウドサービスは、NTTデータで既に実績あるソリューション群を活用しているので、品質が確保され、インストールや設定などの環境構築の作業を効率化・削減することができる。

◆オープンサーバの更改先として導入：COBOLクラウドサービスは、主にメインフレームからのダウンサイジング先の環境を提供するサービスだが、今回は現行システムがオープンサーバからの更改先として採用された。

今後は、BizXaaSマイグレーションサービスと合わせ、年間20件程度の導入を目指していく。また、COBOLクラウドサービス導入後のアプリケーション運用・保守についても、「TISAFYS」と連携して提供していく。

NTTデータ 基盤システム事業本部
TEL：050-5546-2498

USB型シンククライアント 「Safario V3 WOLソリューション」をJNCに納入

OKIグループでコンサルティングサービスおよびソリューション提供を行うOKIコンサルティングソリューションズ（以下OCS）は、USB挿入タイプのシンククライアントソリューション「Safario V3 WOLソリューション（Safario V3 WOL）」を、機能材料や加工品、化学品の製造・販売を行っているJNC（本社：東京都千代田区）に納入した。本ソリューションの導入により、JNCでは、リモート環境からの社内アクセスを簡単・安全に行うことが可能となり、情報システム障害時のサポートの業務効率化を実現した。

JNCは、社内の情報システムの保守運用にあたり、深夜や休日に社内システムに障害が起きた際、リモート環境から保守用PCで社内へアクセスし、情報システムの保守運用を行っていた。しかし、保守用PCをリモート環境から利用するには、都度会社からの持ち出しが必要であり、利用時には各種の設定が生じるなど使い勝手が悪く、同社では、社内に設置した保守用PCに簡単かつ安全にアクセスできる代替手段を模索していた。またその場合、帰宅時には、セキュリティや省エネの観点から保守用PCの電源を切断するため、社外からのアクセス時に保守用PCの電源を投入する仕組みが課題となっていた。

JNCでは、これらの課題を踏まえて、様々な検討を重ねた結果、保守用PCを持ち帰る必要がなく、自宅PCをシンククライアント端末として使用し社内の保守用PCを自由に操作できるSafario V3 WOLの採用を決定した。自宅PCは特別なソフトのインストールや複雑な設定が不要であること、セキュリティが確保され情報漏洩や保守用PCの紛失、盗難などの事故を防止できることなども、採用を決める高評価の要因になった。

Safario V3 WOLは、USB挿入タイプのシンククライアントソリューションで、PCのUSBポートに小型で軽い

「Safarioトークン」を挿入するだけで、リモート環境のPCをシンククライアント端末として利用することが可能だ。端末として利用するPCには特別なソフトウェアのインストールや複雑な設定などは不要。Safarioトークンは「ブートモード」と「バーチャルモード」の2つの起動モードを持っている。ブートモードでは、SafarioトークンをUSBに挿入したあと電源を投入する。またバーチャルモードでは、一旦Windowsを起動したあとSafarioトークンを挿入する。環境に合わせてどちらのモードでも簡単、手軽に利用できる。

また、Safario V3 WOLでは、社内に設置する「Safario GW/MG」に社外からPCの電源を投入するWOL機能が標準装備されている。WOLはWake on LANの略で、ネットワークを経由してリモートからターゲットのPCの電源を投入する仕組みだ。Safario V3では、WOL機能を標準搭載したSafario GW/MGから、特殊なパケットをターゲットのPCに送信して電源を投入する。一般にこのパケットは、ルータを経由した先にあるPCの電源を投入することはできないが、Safario V3 WOLでは、この機能を中継する「WOL-Box」をターゲットのPCと同じセグメントに設置することで、ルータを経由したPCの電源を投入できるようにしている。

JNCでは、Safario V3 WOLの導入により、深夜や休日などの情報システム障害時に自宅のPCにSafarioトークンを挿入し、それをシンククライアント端末として社内に設置された保守用PCの電源を投入することで、簡単、安全に社内へアクセスできるようになり、迅速に復旧作業にあたることが可能になるなど、事業継続性が向上した。

OKIコンサルティングソリューションズ
E-mail : ocs-safario@oki.com

東京大学情報基盤センターが 教育用計算機システム ECCS2012 の運用を開始

国立大学法人東京大学情報基盤センターは、教育用計算機システム（以下、ECCS2012）の運用を2012年3月から開始した。本システムの構築と運用支援をNECが担当している。

東京大学情報基盤センターのECCS2012は、東京大学の学生および教職員が教育・研究のために利用する、コンピュータやネットワークからなるシステムだ。教育研究用端末は、本郷キャンパスの情報基盤センターや駒場キャンパスの教養学部情報教育棟をはじめとし、本郷・駒場・柏キャンパスの図書館や教室に分散して配置されている。

東京大学情報基盤センターは、ECCS2012への更新において、教育・研究サービスの充実とシステム運用コストの抑制、また、省電力化や災害時のサービス継続性向上を目指した。これらの目標に基づく最先端の教育と学術研究の環境をNECが構築した。

ECCS2012の概要は次の通り。

◆大学での大規模事例となる、40,000人規模の認証統合：NECの統合認証サービス「WebSAM SECUREMASTER/EDS、EIM、EAM」により、従来は個々にログインしていたWebアプリケーションへのシングルサインオンを実現。利用者は端末にログイン後、ECCS2012および連携する各種サービスをログイン操作なしに利用可能。また、ワークフローによるアカウント管理を実現し、システム管理者の運用負荷を軽減。

◆データの高速バックアップによる災害対策環境の実現：BC/DRの観点から、駒場・本郷両キャンパスにEMC社製のストレージを設置し、キャンパス間でレプリケーションを行うことにより、データを高速にバックアップ。災害などの緊急時に、バックアップからリストアすることなくデータの継続利用が可能。また、同社ス

トレージのストレージ階層間自動データ再配置機能により、アクセス頻度に応じて速度の異なる複数のディスクを有効活用し、コストと消費電力の最適化を実現。

◆教育・研究系で初めてのネットプリントサービス連携：富士ゼロックス社のネットプリントサービスを活用し、ECCS2012の教育研究用端末からの印刷出力を、学内・学外（全国のセブン-イレブン）の両方で受け取り可能。USBメモリ上にあるOfficeファイルのプレビュー印刷や、ECCS2012外から印刷ジョブの受け付けも可能。また、学内プリント料金の支払は、交通系公共電子マネーに対応し、利用者の利便性を向上。

◆教育研究用端末には1,321台のiMacを採用：iMacを利用し、Mac OSとWindows OSのデュアルブートを実現。これまでOSごとに異なっていた端末の種類を1機種に集約し、端末台数を削減。また、「Kaseya」と「Total Manager for Mac」を組み合わせて、2つの異なるOSのアップデートやシステムイメージの配信、監視などを集中管理し、更新内容に応じた柔軟な端末管理を実現。さらに、端末を管理するサーバ台数も約1/3に削減。

◆学外からのリモート接続環境を整備：帰宅後の学生や非常勤講師などが、学外から教育研究用端末のデスクトップ環境へアクセスすることを可能とするリモート接続環境を整備。各自が所有する機器からセキュアに同時30人の接続が可能。

東京大学情報基盤センターは、システム利用機会の拡充を通じて利用者の利便性向上を実現するとともに、サーバ機器の統合・削減と新ストレージの導入によりシステムの省電力化を達成し、併せてシステム運用コストの抑制を目指していく予定だ。

NEC 文教・科学ソリューション事業部
E-mail : webmaster@elsd.jp.nec.com

東京大学情報基盤センターが教育用計算機システムのIT基盤をEMCのストレージ・ソリューションで構築

国立大学法人東京大学情報基盤センターは、先進的な情報インフラを活用した次世代の教育や高度な研究ネットワーク構築を目的に教育用計算機システムを刷新し、2012年3月から運用を開始した。そのIT基盤を、EMCジャパンのストレージ・ソリューション群が支えている。

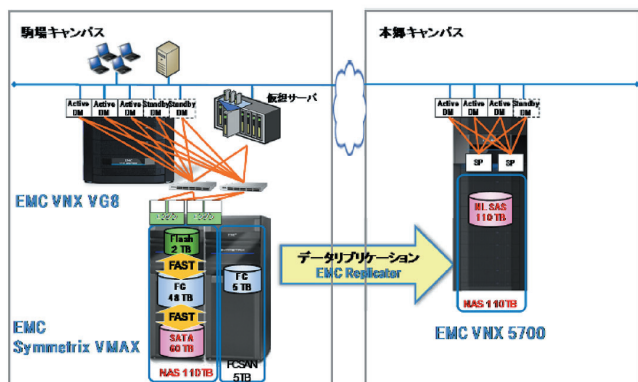
東京大学情報基盤センターは、教育用計算機システムの更新にあたって、利用者向けサービスの拡充、システム運用コストの抑制、省電力や災害時のサービス継続性向上を目指した。そこで2011年に、サーバ、ストレージ、クライアント、プリンタなどを含んだシステム全体を見直し、入札仕様としてシステム要件を公開した。その結果、NECが落札、システム全体の構築を担当。EMCの各種ソリューションを含んだシステムの構築を行った。

EMCのストレージ・ソリューションは、マルチティアのドライブを組み合わせて、データの自動再配置によりパフォーマンス向上と省電力を両立することや、キャンパスを超えたレプリケーションで、リストアが不要なバックアップデータを保持できることから、システム要件を満たすものとして導入された。具体的には、自動階

層化ソフトウェア「EMC FAST VP」の活用で、アクセス頻度に合わせたデータの自動最適保存が可能になり、ディスクのパフォーマンス、消費電力、保存コストも最適化することができるようになった。さらに、本郷と駒場にあるキャンパス間を災害対策ソフトウェアである「EMC Replicator」でつなぎ、万一の災害時にも対応できる環境を構築し、安心して使える信頼性の高いシステムを構築した。

東京大学情報基盤センターのIT基盤を支えるEMCのストレージ・ソリューション群は次の通り。

- ◆ミッション・クリティカルな環境向けの大規模ストレージ「Symmetrix VMAX」
- ◆中規模向けかつSANもNAS環境にも対応可能なユニファイド・ストレージ・システム「VNX」
- ◆災害対策ソフトウェア「Replicator」
- ◆アプリケーションごとのポリシーに基づいて、データへのアクセス頻度の変化に対応し、適切な階層のディスクに自動的に保存する自動階層化ソフトウェア「FAST VP」



東京大学情報基盤センターの基盤ストレージのイメージ

多数の教育研究用端末を持つ環境では、ファイルサーバへのアクセス・パターンが一般的なビジネス・アプリケーションとは異なっていると考えられる。東京大学情報基盤センターでは、「自動階層化の効果を検証しながら、教育機関で有用なファイルサーバシステムの構成要件について今後も検討を進めていきます」と語っている。

EMC ジャパン TEL : 03-5308-8888

日本オラクル

NTTデータ先端技術に
高速分析専用マシンを納入

日本オラクルは、NTTデータ先端技術が同社の高速分析専用マシン「Oracle Exalytics In-Memory Machine」を採用したことを発表した。

NTTデータ先端技術では、オラクル製品を企業のIT基盤として最大限に活用するための高付加価値な技術支援サービスを各種提供している。今後はビッグデータに対応したデータ分析など、情報活用分野におけるITソリューションへのニーズが益々高まることを見込み、新たに提供予定のオラクルのビジネス・インテリジェンス製品「Oracle Business Intelligence」の導入支援サービスの基盤として「Oracle Exalytics In-Memory Machine」を活用していく。

NTTデータ先端技術は、新サービス提供にあたり、Oracle Exalytics In-Memory Machineの卓越した性能パフォーマンスの他、導入と運用管理の容易さなどを高く評価して採用を決定した。これまで同社は、オラクルのデータ統合技術「Oracle GoldenGate」とデータベース・マシン「Oracle Exadata Database Machine」を活用したノンストップDB移行支援サービスにより、大規模システムのデータベース統合や情報系システムの負荷分散などを実現してきた。今後は、Oracle Exalytics In-Memory Machineを利用した新サービスを追加することで、さらなる顧客満足度の向上と事業の拡充を狙っている。Oracle Exalytics In-Memory Machineを活用した新サービスの提供開始は本年5月を予定している。

NTTデータ先端技術は「BI Boosts Your Innovation」のコンセプトのもと、BIシステムの構築やデータ分析コンサルティング等の取組みを数多く行っており、日本オラクルとは「Oracle Exadata」国内初出荷時の検証など、数多く協業している。

日本オラクル TEL : 03-6834-4837

CTC

「クラウドバックアップ for NetApp」を
TOKAIコミュニケーションが採用

伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）は、TOKAIコミュニケーションズ（本社：静岡県静岡市）が提供するパブリッククラウドサービス「OneOffice クラウドファイルサーバサービス」に、遠隔地データ保管先として、ネットアップのバックアップ技術を利用したパブリッククラウド型データバックアップサービス「クラウドバックアップ for NetApp」の提供を開始した。

企業における災害対策として「バックアップデータを遠隔地に格納したい」、「地震などの災害や電力不足に備えてセキュアなデータセンターを利用したい」というニーズが高まっている。このような要望に対応するために、CTCでは、お客様が利用しているネットアップのストレージ「NetApp FASストレージ」に蓄積されたデータを、CTCのデータセンター内に設置されたストレージへ遠隔地保管するサービスとして、クラウドバックアップ for NetAppの提供を開始している。

そして今回、CTCは、TOKAIコミュニケーションがサービス展開するOneOffice クラウドファイルサーバサービスのデータの遠隔地保管先として、サービス連携する環境を構築した。これは、2012年2月21日にTOKAIコミュニケーションズが発表した戦略的ビジネスアライアンスの一環である。クラウドバックアップ for NetAppを採用することで、TOKAIコミュニケーションズのOneOffice クラウドファイルサーバサービスの利用ユーザーは、より一層、セキュアで満足度の高いデータ保管サービスを利用することができる。

伊藤忠テクノソリューションズ TEL : 03-6203-4100

京セラコミュニケーションシステム

バンプレストが 企業内ドキュメント配信サービスを納入

京セラコミュニケーションシステム（以下、KCCS）は、バンダイナムコグループのバンプレスト（本社：東京都品川区）が、iPadを用いた社内データ活用のため、企業内ドキュメント配信サービス「GreenOffice Publisher」を導入したことを発表した。

バンプレストでは、2010年6月に顧客とのコミュニケーション強化を目的に、営業部員を対象にiPadを導入し、商品画像やWebCMなどの動画コンテンツをiPadにダウンロードして販促ツールとして利用していた。さらに2011年7月にiPadを全社導入し、会議の効率的な運用や、ページ数が多く持ち運びが困難な資料やマニュアルの閲覧など、端末活用の幅を広げることを計画した。

GreenOffice Publisherは、企業内のビジネス文書やカタログを電子書籍化し登録・配信する機能、配信された電子書籍コンテンツを閲覧するビューア機能、企業に求められる情報セキュリティを確保するための文書管理機能などを持つクラウドサービスだ。バンプレストでは、以下の3点を評価してGreenOffice Publisherを採用し、2012年1月に導入した。

- ◆**全社員への利用促進**：PCとタブレットが混在する環境で利用できること
- ◆**セキュリティ機能**：コンテンツの暗号化、有効期限設定、端末認証など
- ◆**管理機能**：フォルダでの階層管理、ユーザーグループ単位での柔軟なアクセスコントロール

バンプレストは、経営会議などの重要度の高い会議でGreenOffice Publisherを利用している。従来の会議では、画像を含む多くの枚数の資料が配布・投影されていたが、投影される資料をそのまま手元の端末で確認できるので、会議の活性化、効率化が図られた。

京セラコミュニケーションシステム
E-mail : kccs-support@kccs.co.jp

デジタルアーツ

ソフトバンクモバイルの子ども用“スマセレ”に 「i-フィルター for Android」が採用

デジタルアーツは、ソフトバンクモバイルが提供するスマートフォンを簡単操作で自分好みにカスタマイズできるサービス“スマセレ”の子ども用“あんしんセキュリティセレクト”に、同社のWebフィルタリングブラウザ「i-フィルター for Android」が採用されたことを発表した。

“あんしんセキュリティセレクト”はスマートフォンの小学校高学年～中学生の利用を想定しており、搭載するコンテンツもセキュリティに配慮した専用ブラウザやアプリ制御機能の搭載の他、ゲームやエデュケーション系アプリやキャラクター関連アプリを搭載したサービスとなっている。従来の携帯電話からスマートフォンへの乗り換えが急激に増加する中、フィルタリングおよびアプリ制御を導入したスマートフォンを利用することで、インターネット上で起こりうるトラブルから子ども達を未然に守ることが可能になる。

今回、ソフトバンクモバイルがサービスを開始する“あんしんセキュリティセレクト”にはi-フィルター for Androidが最初からインストールされているので、“あんしんセキュリティセレクト”のホーム画面上の「i-フィルター for Android」のアイコンをタップして利用手続きを行うと、通常3日間無料のところを、特別に30日間無料で試すことができる。また、お試し期間終了後は、Google Checkoutを通じて年額3,780円（税込）で購入することができる。

デジタルアーツでは、今後もソフトバンクモバイルと協力しながら、子どもが利用するスマートフォンにフィルタリングを導入することの重要性を強くアピールしながら、スマートフォンにおけるフィルタリングの利便性を追求し、より多くの方に手軽で快適にフィルタリングサービスを利用できる環境を提供していく。

デジタルアーツ TEL : 03-5220-1110